



ポイ捨てごみを減らすためには？ 町からはじまる海ごみ対策

小学4～6年生の授業との関連一覧表

- 4年生 雨水の流れ（理科） 健康なくらしとまちづくり・ごみはどこへ（社会）
- 5年生 流れる水のはたらき（理科） 国土の自然とともに生きる・環境をともに守る（社会）
- 6年生 生物のくらしと環境（理科） 人と環境（理科） 世界の中の日本・地球規模の課題解決と国際協力（社会）
- その他 総合的な学習の時間や、地域の清掃活動の事前学習として

遠いようで、無関係ではない

海ごみと、町のポイ捨てごみ

誰しもテレビのニュースや新聞で、海ごみで埋め尽くされた海水浴場や、ロープや網に絡まる野生動物の様子を見たことがあるのではないのでしょうか。海ごみ問題は年々深刻さを増しています。海ごみを間違えて食べてしまう生き物が増えたり、ものすごく小さなマイクロプラスチックが増えていったりと、海ごみの悪影響はとどまるところを知りません。

海辺に流れ着くごみを素材別に見ると、7割がプラスチックであり、2050年には海を漂うプラスチック

ごみの重量が、海に生きる魚の総重量を上回るとの研究結果があります。海ごみ問題はプラスチックごみ、ひいては、プラスチック消費の問題と密接に関わっています。遠く離れた海のごみ問題が、わたしたちの暮らしと深く結びついているのです。

美味しい海産物をたくさん食べ、海に憩いの場を求め、物流を海運に支えられ、海に生かされている私たちに何ができるのでしょうか。



ごみが漂着する鶴岡市の海岸



ロープや網は野生動物に絡まる



漂流ごみは生物の誤飲を招く



破片化するプラスチックごみ

海ごみの6～8割は陸から流れてくる

海ごみを個数別に調べてみると、6～8割は陸域で使われている飲食物のパッケージや、生活雑貨だと言われています。河川を流れるごみが、海ごみの元になっているのです。

実際に平成25年、26年に東京理科大学が行った調査では、天童市（落合橋）から須川へ投下したGPSフロートが、酒田市（最上川河口）まで最短25時間でたどり着きました。

川ごみは、町中のポイ捨てごみや散乱ごみが風に吹かれたり、雨に流されたりして水の力で集まったもの

です。このようなつながりを考えると、海ごみ問題を解決するためには、遠く離れた町中のごみ問題に取り組んでいくことが必要だと気づきます。

河川敷のポイ捨てごみはもちろん、管理が甘くカラスや野良猫に荒らされるごみの集積場所、イベント・観光地にあふれるごみ箱など、注意して見てみると、海ごみの発生場所は身近なところに潜んでいます。

ポイ捨てを減らすためには、人に「ポイ捨てをしないようにしないと」と気が付いてもらうことが重要です。どのような方法があるのか考えてみましょう！



ポイ捨てが多いA県の河川敷



カラスに荒らされるごみ捨て場



ごみがあふれる祭りのごみ箱

ポイ捨てを禁止する看板では、ポイ捨ては減らない？

右の写真のように、ポイ捨てを減らすために「不法投棄は犯罪です」といった口調が厳しい否定的な内容の看板を掲示しているところをよく見ると思います。しかし、こういった看板は、**内容に対する反発心を生じさせたり、他の人もポイ捨てをしていることを示すサイン**となってしまうたりして、逆にポイ捨てを増やしてしまうことがあります。実は、ポイ捨てを注意するような厳しい言葉よりも**ポイ捨てしにくい状況を作る**方が効果的です。ポイ捨てを減らすために人の心理や行動に注目した環境心理学の視点から行った取り組みを紹介していきます。



鶴岡市でのポイ捨てを減らすチャレンジ！

鶴岡市の住宅街を流れる内川の河川敷が、**ポイ捨てが集中する「ホットスポット」**となっていました。この場所で 2021～2023 年にかけて、環境心理学の視点を取り入れた対策を実施し、ポイ捨てされたごみの状況を測定することで効果を検証しました。

2021 年は、ポイ捨ての実態を把握するために 8 月～11 月にかけて、ごみの散乱量と種類について記録しました。2022 年は、調査対象地が憩いの場となるように、人の往来の増加を目指しベンチを設置しました。さらにポイ捨てされたごみが川へ流入することを防ぐために期間限定でゴミ箱を設置しました。

2023 年は、人感センサー付きのフラッシュライトや赤色の回転灯を設置してポイ捨ての減少を試みました。環境心理学の視点から様々な取り組みを行った結果、ポイ捨てが減りました！

ポイ捨てされたごみの特徴（よく観察された順に）

- ・ 500ml や 2L のペットボトル
- ・ 食品の容器、プラスチックの包装
- ・ 近隣のコンビニで購入した商品（パンやおにぎりなど）のプラスチック包装
- ・ まとめごみ（レジ袋などに様々なごみがまとめ入れられたもの）
⇒まとめごみの多くには、郊外のスーパーで割引された総菜のプラスチック容器が入っていました
- ・ おしぼりなどのプラスチックの包装やその他プラスチックの破片
- ・ たばこのフィルターや空箱

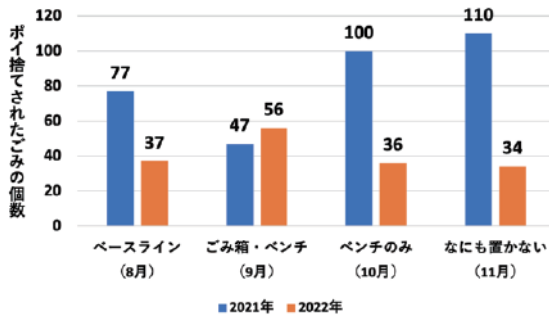


人がいるかもしれない状況を作り出し、ポイ捨ての抑制を目指す！！

2021年に行ったポイ捨ての実態調査から、内川に沿った道路を往来する方によるポイ捨てが多くあることが明らかになりました。「人が見ている状況では、進んでポイ捨てをしようしない」という、人の特徴を踏まえて、2022年はベンチを設置しました。

また、河川への流入を防ぐために一時的にごみ箱を設置しました。そして、付近の地域住民がポイ捨てに

よって困っていることを伝える看板や、ごみ箱がいつまで設置されるのかを伝える日めくりカレンダーをごみ箱に掲示しました。これによって「ポイ捨て対策に様々な人が関わっている」ことを伝えられるようになりました。その結果、前年度と比較してポイ捨てされるごみの量の増加を食い止め、さらにポイ捨てされるごみが少ない状態を維持することができました。



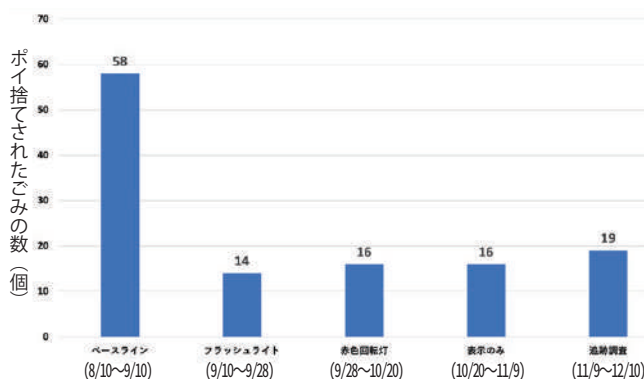
※ベースライン：ポイ捨てを減らす取り組み前の、状況を確認するための期間



照明を設置することでポイ捨ては減らせるの？

2022年に行った研究により、ポイ捨てを減らすことができました。しかし、郊外のスーパーで値引きされた総菜の容器などが入ったまとめごみが、依然として捨てられる状況が続いていました。そのため2023年は、昼間だけではなく、暗くなった後もポイ捨てを減らすために効果的な取り組みを実施しました。「誰かに見ら

れているかもしれないことを意識づける」ため、人感センサー付きフラッシュライトや赤色の回転灯を設置することで、ポイ捨てを控えさせることを目指しました。その結果、フラッシュライトを設置することでポイ捨てが減り、赤色の回転灯を設置してもポイ捨てが少なかった状態が維持されました。



2023年までの調査のまとめ

- ・ポイ捨てされたごみを詳しく調べることで、どのような人が、どのようなタイミングで、どのようにごみをポイ捨てしたのかを探ることができます。どのような働きかけが必要か考える材料になります。
- ・「ポイ捨てしちゃだめだ」と思う状況を作ることが、ポイ捨てを減らすために効果的です。
 - ※「禁止！」などの言葉だけではなく、「地域を大切にしている人がいる」など肯定的なメッセージを使う工夫が必要です。

→これらをもとに、ポイ捨てを減らすために具体的に何ができるのか考えてみましょう！！

身近にあるポイ捨てが集まる場所を無くすには？

ポイ捨てを減らす方法をみんなで考えよう！

授業時間 90分
45分×2コマ

この授業では、皆さんの身近な地域で発生しているごみのポイ捨てに目を向け、話し合いをしながら解決案を検討してもらいます。環境心理学の視点から検討した結果、ポイ捨てを注意するメッセージを掲示しなくても、ポイ捨てをしにくい状況を作ることで、ポイ

捨てを減らす効果が示されています。ポイ捨てをしようとしている人に対して、ポイ捨てをしたらまずいと思わせる状況を作るために、掲示する看板の内容を考えてみましょう。可能であれば看板を設置して、その効果も確認してみましょう。

具体的な作業

・ごみがなぜそこにあるのか理由を考える・・・【ワーク①】

⇒実際にポイ捨てされたごみから、どんな人がポイ捨てをして、どうしてそこにごみをポイ捨てしてしまったのかを想像します。

・想像したポイ捨てをした人物に対して、有効な対策を考える・・・【ワーク②】

⇒ポイ捨てがひどいところに看板やポスターを掲示することを踏まえて、ポイ捨てすることを主体的にやめたいような肯定的なメッセージをみんなで考えます。

※グループワークの際に児童生徒同士で議論することができない場合は、サポートする人が各児童生徒の意見を拾い上げるような声かけをすると、スムーズに意見を集約できると思います。

～授業のながれ～

事前準備1 ホットスポットの選定

ごみのポイ捨てがひどい場所をホットスポットといいます。そのような場所が学校の近くや、自分たちの住む周辺地域の中にないか事前に確認をしておきます。クラスの活動班に応じて複数箇所用意します。

その上で、それぞれの場所の特徴を、児童生徒に共有できるように準備をしておきます。学校や近隣の地域周辺にポイ捨てのホットスポットがない場合、8ページのリンクからデータを取得できます。

事前準備2 ポイ捨てされたごみの確認

ごみの写真は、授業中の【ワーク①】で、「どんな人がポイ捨てをしていたのか」人物像を想像してもらう資料として用います。そのため、ホットスポットごとにポイ捨てされたごみの写真を4つほど準備します。

ごみの写真に加えて、ホットスポット周辺の地図や、その場所の特徴をまとめた資料を事前に準備しておく、【ワーク①】の際にスムーズに説明することができます。

<場所の特徴を示す際のヒント>

- ・住宅街、田畑があるなどの土地の利用区分
- ・人や車の通行量、通行する人たちの目的
- ・周辺に家があるか、街灯があるか
- ・目印となる建物などの有無

<ホットスポットが身近にあまりない場合>

複数のグループで同じ場所を扱います。ワーク①でポイ捨てした人の人物像を考えさせる際、グループごとに異なるポイ捨てされたごみを割り振ることで対応できます

例)

グループ A⇒ペットボトルなど飲料系ごみ

グループ B⇒食品の容器包装のごみ

グループ C⇒吸い殻などたばこ関連のごみ

事前準備3 ホットスポットとポイ捨てされたごみの写真の例

以下のように、地図や周辺の状況とポイ捨てされていたごみの写真を、グループごとにまとめて示します。



事前準備4 グループ分け

事前に学校周辺や近隣の地域でのポイ捨てのホットスポットを準備した場合、近くに住んでいる児童生徒を同じグループに配置します。同じ通学路を使っていることから、ポイ捨てされた場所のイメージがつきやすくなります。

<場所の選定を事前学習とする場合>

- ・児童生徒の登下校時に、通学路を注意深く見てホットスポットを報告してもらいます
- ・ホットスポットが学校の周辺になる場合は、実際に見に行き、状況を児童生徒自身に確認してもらいます

授業の導入

1 海洋ごみとポイ捨てごみのつながりについて 10分

本紙2、3ページや、8ページのリンクからダウンロードできるプレゼンデータを参考に次の内容を説明します。

- ①海ごみと、町でポイ捨てされたごみの関係について
- ②「禁止」「犯罪！」といったよく実施される対策に限界がある
- ③実はポイ捨てをしにくい状況をつくることで、ポイ捨てを減らせる可能性がある

ワーク①

2 ポイ捨てのホットスポットの共有と、人物像の分析（個人ワーク） 15分

【事前準備3】で用意したポイ捨てのホットスポットの状況を共有します。地図を見せながらどの辺なのか示し、場所の特徴を説明します。その上で、その場所にどのようなごみがあったのか、どのようなごみが多くポイ捨てされていたのか、**ごみの特徴**を説明します。その後特徴的なごみを取り上げ、どのような人と関わりがあるか、人物像を想像するような問いかけを行います。

1つ例を挙げて説明する場合は、それによって人物像のイメージが作られてしまうため、この後のグループワークで児童生徒にポイ捨てした人の人物像を考えさせる際には、例示したごみ以外のものを使うとよいでしょう。

<コンビニのホットスナックの包装の場合>

「どんな時に買おうかなって思う？」
 「どんな風買ったものを食べるかな？歩きながら？その場所で？」
 「食べ終わった後に包みなどはどうしたいと思う？」

<人物像の分析> ※分析方法は次のページを参照

巻末の**【個人用ワークシート】**上部を使い、整理しましょう（A4での印刷を推奨）。

※対象となるごみが複数ある場合は、それぞれ児童生徒に選ばせてもいいですし、選択肢が少ない場合は、どのごみについて考えさせるか指示した上で人物像を考えさせてもいいと思います。

ワークシートの記入例

巻末の【個人用ワークシート】を使い、どのごみについて考えるのか、そのごみはいつ頃捨てられたのか、そこで何をしている人が捨てたのか、どうやって捨てたのかを考えて記入します。その際、ホットスポットの様子や、周辺の建物、環境などを参考にしながら、ポイ捨てした人物を想像します。

考えたごみについて	いつ（何時ころ）捨てられた？	何をしている人が捨てた？	どうやって捨てた？
A お菓子のパッケージ	学校の放課後 15時～17時ころ	近くの公園で遊んだあとの帰ってる途中の小学生	公園で食べたあと、ポケットに入れていたパッケージを川に捨てた
B 値引きされたスーパーのお惣菜	仕事帰り 19時～21時ころ	車を運転している人	道路わきに車を止めて、食べたあとぼいっと捨てた

3 人物像についてグループでの共有 20分

巻末の【グループ用ワークシート】を使って、班ごとに気づいたことを共有、記録してまとめます（A3以上での印刷を推奨）。

ごみをポイ捨てした人の人物像を分析した結果について、グループメンバー同士で共有します。



4 看板を用いてポイ捨てしにくい状況を作り出す（個人ワーク）15分

【ワーク①】でポイ捨てをした人物の分析をもとに、ポイ捨てのホットスポットに、どのような内容の看板を掲示したら、「ここはポイ捨てをしにくいな」と思わせることができるのかを考えます。

巻末の【個人用ワークシート】中間部を使い、整理しましょう。

考えたメッセージと、どうしてそのようなメッセージにしたのか理由についても書きましょう。

<看板に載せる内容を考える際のポイント>

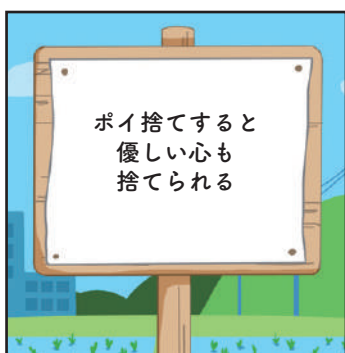
- ・短い言葉で端的に
- ・ポイ捨てをした人の人物像に則した内容（年齢層、ポイ捨てした理由を踏まえて）
- ・見た人が気持ちよく行動できるようなポジティブな表現

<使用しない方がいい言葉>

否定的な言葉、口調が強い言葉

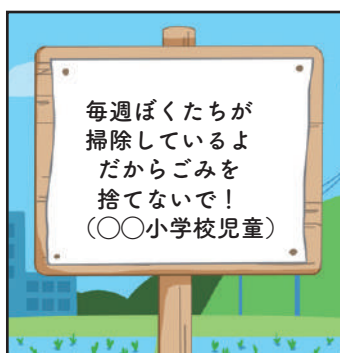
例：「禁止」、「厳禁」、「罰する」、「監視」、「犯罪」、「捕まえる」、「罰金」など

ワークシートの記入例



なぜそのメッセージにしようと思いましたか？

ごみもおこってしまうし、優しい心や笑顔も消えてしまうから



なぜそのメッセージにしようと思いましたか？

大人の人なら、小学生にいわれたらポイ捨てしなくなると思うから

5 看板に載せる内容のグループでの共有 10分

各自が考えた看板に載せるメッセージをグループメンバー同士で共有します。グループの人たちが考えた内容の中で、ポイ捨てをしにくいと思わせるメッセージだと考えるものを1つか2つ選び、巻末の【グループ用ワークシート】の下段を使って、クラスの人たちに共有するための準備をします。

6 クラスで共有とまとめ 20分

〈クラスで共有〉

グループごとに考えた内容について、クラスの児童生徒に向けて発表します。発表の仕方として、

- ①どこの場所を対象としたのか
- ②どのようなごみに注目したのか
- ③ポイ捨てした人の人物像
- ④どのようなメッセージを看板に掲示しようと考えたのか

について発表してもらいます。クラス全体に共有する際、タブレットとモニター（プロジェクタ）を接続できる場合は、発表者のワークシートを写真撮影し、クラス全員が見られるようにモニターに投映すると発表内容がわかりやすくなります。

児童生徒の発表に対するフィードバックとして、9ページの【対策メッセージ例とそのコメント例】を参考にいただければと思います。全体の発表が終わってからまとめてフィードバックする方法もありますが、個別に一言ずつフィードバックすることで、児童生徒の達成感が高まると思います。ここまでの経過時間をみて、フィードバックの方法を臨機応変に設定いただければと思います。

〈まとめ〉

この授業を通して、身近にあるごみ問題に注意を向け、どのように解決していったらよいか、その方法の一つを学ぶことができたと思います。ポイ捨てを減らすことは、私たちの地域や地球全体の美しさと持続可能性につながります。

現在、そして未来の世代に美しい地球を残すために、一人一人が意識を高め、地域社会の一員として責任を持ち、行動を起こすことで、ポイ捨て問題に立ち向かうことができます。今日の授業を通じて得た知識と経験を大切に、ポイ捨てをなくし、持続可能な未来を築くために、共に努力していきましょう。



7 ポイ捨てを減らす対策の実践

ポイ捨ては、さまざまな要因が関係して発生します。すでにポイ捨てが多くある状況もポイ捨ての呼び水になります。それ以外にも、壊れているものや管理されず放置されているものが近くにある状況、人目につきにくい状況、場所のイメージが悪い、あるいは明かりがなく暗い状況などもポイ捨てされやすい要因です。

そのような場所で、ポイ捨てを誘発する可能性のあ

る要因を除去し、児童生徒が考えた内容の看板を掲示することで、その場所にポイ捨てを減らすために注意を向けている人がいて、ポイ捨てするとまずいかもしれないと、ポイ捨てしようとしている人に考えさせるきっかけを与えることとなります。さらに実践的に取り組む場合は10ページをご参照ください。

プレゼンテーション
各種データはこちら



海と日本 山形 授業 検索

<https://yamagata.uminohi.jp/report/cfb2023textbook/>



対策メッセージ例とそのコメント例

実際に児童が考えた標語の一例です。グループ発表後、アイデアに対しコメントする際の参考にしてください。

対策メッセージ

**こんなごみがふえています！
○燃えるごみ ○プラスチック
みんなの協力でごみを減らそう！！**

理由

なんのごみが捨てられているかを教えることによって、大変だと教えれば、減ると思った。

コメント・アドバイス

「データ提示タイプ」
問題となっているごみの具体的なものを示すことで、危機意識を持ってもらえそう。特定の人を悪く言わず、「みんなで協力」という文言は反発が少なく、受け入れやすい。

対策メッセージ

**海・川の生き物守ろう！
自分たちのためにも**

理由

ごみを捨てると生き物が死んで、自分たちも魚など食べられなくなるから。

コメント・アドバイス

「自然の豊かさタイプ」
ちょっとしたポイ捨ての結果、大きなものが損なわれると示し、ことの重大さを訴えかけている。自分のポイ捨て行為を振り返ってやめてもらえると良いですね。

対策メッセージ

**いつもきれいにしてくれて
ありがとうございます**

理由

ほめたりすると、相手もうれしくなるから。

コメント・アドバイス

「ほめて伸ばそうタイプ」
規範的な行動を肯定し、自分以外の多くの人がきれいに使っていると想起させ、ポイ捨てしにくいと思わせることができます。

対策メッセージ

**ポイ捨てすると
優しい心も捨てられる**

理由

ごみもおこってしまうし、優しい心や笑顔も消えてしまうから

コメント・アドバイス

「道徳心に訴えるタイプ」
ポイ捨て行為で、自身の人間性が損なわれることを示してよい。自分自身の行動を振り返り、良心を持ち続けようと再確認するきっかけにもなります。

対策メッセージ

**毎週ぼくたちが掃除しているよ
だからごみを捨てないで！
(○○小学校児童)**

理由

大人の人なら、小学生にいわれたらポイ捨てしなくなると思うから

コメント・アドバイス

「管理者明示タイプ」
子どもたちがきれいにしていると示すことで、捨てにくくなる。大人は子どもたちの前で、規範的な行動をとりやすいとの研究結果があるので、清掃主体として子どもたちを想像させるのは効果がありそう。

コメントのポイント

- ・何が正解ということではなく、ホットスポットの状況や利用者によって効果が変わります。
 - ・「禁止」「罰せられます」といった強い口調は反発を招く可能性があります。
 - ・語りかけるような優しい口調であれば、ポイ捨てする人の行動を変えることができるかもしれません。
- 自由な発想で、大人では到底思いつかないような奇抜なアイデアが生まれると期待しています。

アウトプットの形と注意点

ポスターや看板の形でアウトプット



プログラムを進めていく中で生まれた標語を実際に看板やポスターの形で掲示し、ホットスポットのポイ捨て状況が改善されるか観察してみましょう。左の写真は、小川沿いに舟形小学校の児童が考えた看板を設置したところです。紙に印刷したものをラミネートすると屋外でも長持ちします。

複数の標語を掲示する場合は、2～4週間を目処に、次々と貼り替えることで、「誰かが管理をしたり気にかけていたりしている場所だ」と利用者に認識させることができ、さらなる効果向上が見込まれます。

注意すべきポイント

- ・ポスターや看板を掲示するときは、土地の管理者から許可をもらいましょう
- ・一度清掃して綺麗な状態にしてから設置すると、効果が向上、継続しやすい傾向にあります
- ・長期間設置し続けると、徐々に効果が薄れていきます。定期的にポスター貼り替え、更新しましょう
- ・設置後も観察を続け、効果がなければ違う対策を実行しましょう

授業を進める際のQ & A

Q. 海から遠い学校でも、海ごみ問題に取り組む意味はありますか。

A. 海ごみの6～8割は河川を通して流出した陸域ごみだと言われています。海から遠い陸域でゴミを捨てない、捨てさせない対策が重要です。それでも捨てられてしまったごみは、定期的に回収し地域の清潔度を保てば、町の美化が進むだけでなく、世界中の海ごみ削減に貢献することになります。

Q. 参加する児童は事前に準備するものは必要ですか。

A. プログラム実施の1週間前から、地域にどのくらいごみが落ちているか観察してもらいましょう。登下校中や、家族で出かけるときなど、道路脇や公園など落ちているごみがないか、どんな種類のごみがどこに落ちていたか、気にかけて、簡単なメモを取って記録してもらえると学習効果が向上します。

Q. ホットスポットになりやすい場所は、どのようなところですか。

A. ポイ捨てする人は、捨てている瞬間を誰かにみられるのを嫌がるようです。近くに人家や施設が少なく、監視の目がゆるい場所や、夜間に明かりが少なくポイ捨て行為が発見されにくい場所が該当します。公園や駐車帯など休憩しながら軽食を摂る場所も、容器包装ごみが発生しやすく捨てられやすい傾向があります。これらの特徴は、授業の導入部分や振り返りに用いることができます。

Q. 対象となる学年は何年生ですか。

A. 小学校5年生以上に適しています。町の美化や地域の廃棄物のシステム、水の流れて町～川～海が繋がっていることを学習してから本プログラムに取り組むと、より理解しやすくなります。班ごとに話しあって意見をまとめるため、小学校高学年に適しています。各班に大人を1人入れることで、4年生以下でも実施可能です。

こんなことも調べてみましょう & 参考サイト 海ごみ・川ごみ TOPICS

伝えるのはあなた 未来のために知っておきたい川ごみの話～川ごみ学習ポイントブック～



川や海のプラスチックごみ削減のため、子どもたちや地域の方々に向けて「出前講座」を実施する際の要点をまとめた「川ごみ学習ポイントブック」です。川ごみの基礎知識から講座の進め方、便利な啓発ツールまで網羅的に紹介されています。日本各地で河川や湖沼などの水辺環境の保全活動に取り組む団体により組織される「全国川ごみネットワーク」が作成・公開しました。

URL [全国川ごみネットワーク
kawagomi.jp/2022/12/learn_pbook/](http://kawagomi.jp/2022/12/learn_pbook/)



持続可能な開発目標 SDGs の視点で様々な分野と連携



貧困、紛争、気候変動など地球規模の課題をさまざまな立場の人々が話し合い、2030年までに達成すべき目標として整理されたSDGs。17個の目標の1つに、「14. 海の豊かさを守ろう」がありますが、本プログラムで学んだ通り「11. 住み続けられるまちづくりを」「12. つくる責任 つかう責任」「15. 陸の豊かさを守ろう」の目標をつなぎ合わせながら対策していく必要があります。

URL [日本ユニセフ
www.unicef.or.jp/kodomo/sdgs/](http://www.unicef.or.jp/kodomo/sdgs/)



環境省：プラスチック・スマートの考え方で、生活様式をアップデート



プラスチックごみ問題だけでなく、温室効果ガスの問題解決のためにも、正しい処理やリサイクルを広め、バイオマスプラスチックや代替素材などを理解し、プラスチックと賢く付き合いつつ、削減していくことが重要です。取り組みを推進し、さらに広げていくために「プラスチック・スマート」を実践しましょう。

URL [環境省・プラスチックスマートキャンペーンページ
plastics-smart.env.go.jp/](http://plastics-smart.env.go.jp/)



マイクロプラスチックの問題から海の生物多様性を考えてみよう



町なか、川、海に放置されているプラスチックごみは太陽の紫外線にさらされ、劣化し、脆くなります。ちょっとした衝撃で砕けてしまい、5mmより小さくなったプラスチックをマイクロプラスチックと呼びます。回収処理が難しくなるうえ、より小さな海洋生物（多くの生き物を支える海の動物性プランクトンなど）が誤飲してしまう危険性があり、生態系全体への悪影響が懸念されています。

URL [日本財団ジャーナル「マイクロプラスチックが人体に与える影響は？」
www.nippon-foundation.or.jp/journal/2020/44897/ocean_pollution/](http://www.nippon-foundation.or.jp/journal/2020/44897/ocean_pollution/)



ポイ捨てされた「ごみ」について考えよう！～ごみはどこからくるの？どうしたらへらせるの？～

自分たちのグループが考える場所： _____

◎すてられたごみを見て、いつ、何をしている人が、どうやってすてたのか考えましょう

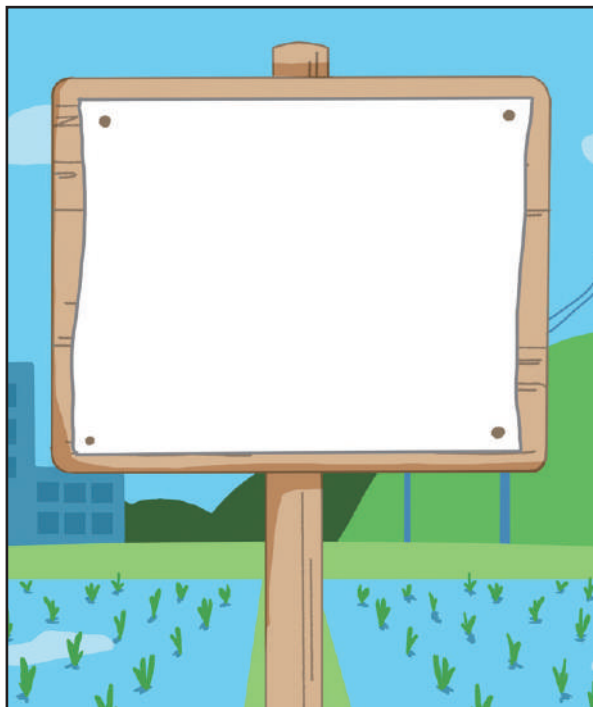
ワーク1

考えたごみについて	いつすてられた？ (何時ころ？)	何をしている人がすてた？	どうやってすてた？



◎ごみのポイすてをへらすためのメッセージを考えて、その理由も書きましょう
(その場所を使う人をイメージして、メッセージを考えましょう)

ワーク2



なぜそのメッセージにしようと思いましたか？

◎感想を書きましょう

ポイ捨てされた「ごみ」について考えよう！～ごみはどこからくるの？どうしたらへらせるの？～

自分たちのグループが考える場所： _____

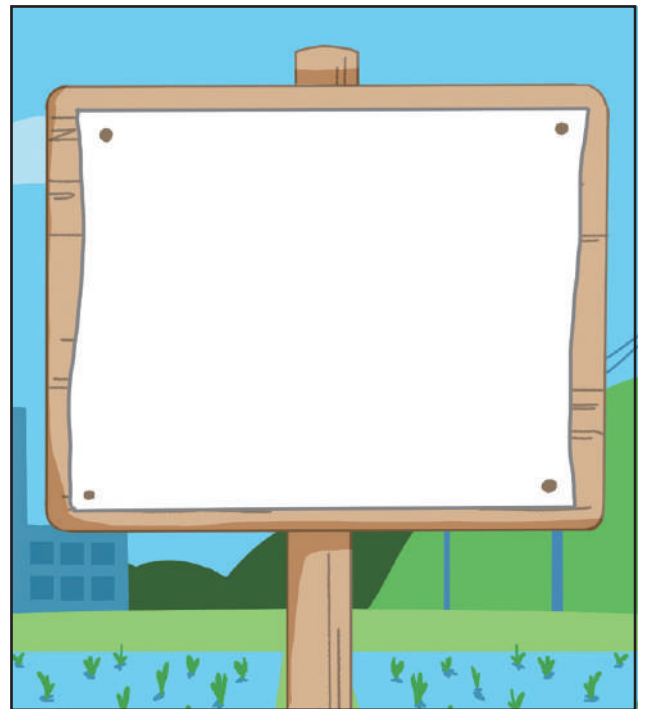
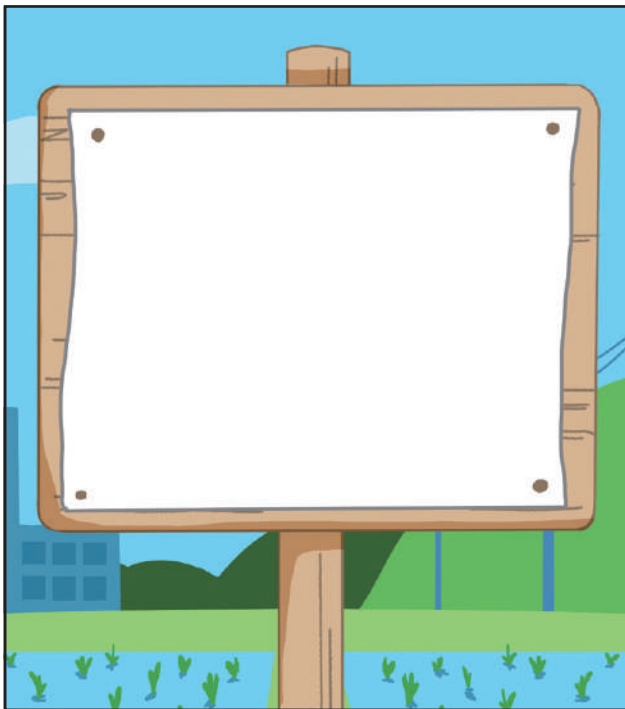
ワーク1

◎すてられたごみを見て、いつ、何をしている人が、どうやってすてたのか考えましょう

考えたごみについて	いつすてられた？ (何時ころ？)	何をしている人がすてた？	どうやってすてた？

ワーク2

◎グループの人たちが考えたメッセージのアイディアを出し合いましょう。「これは良さそう！」と思うものをえらび、理由もいっしょに書きましょう。グループのみんなで話し合っ、考えても良いです。1つに決められない時は、2つ書いてもいいです。



なぜそのメッセージにしようと思いましたか？

なぜそのメッセージにしようと思いましたか？

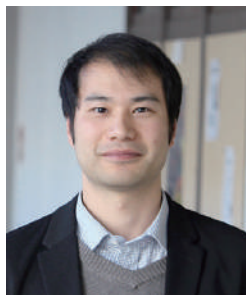
研究者からのメッセージ

森 康浩 もり やすひろ

宮城学院女子大学学芸学部心理行動科学科

ポイ捨てはとても身近に起きている環境問題です。ごみのポイ捨てが多くある状況がポイ捨てを増加させる呼び水となることもあります。人の行動が原因で起こってしまうポイ捨ての問題を食い止めることができるのも人です。

今回の授業で知り、議論したことを踏まえて、ポイ捨てをしてしまう人の心を推測して、ポイ捨てをしにくくさせるためには、どのようなものを置いて、どのようなものを掲示することで、ポイ捨てを減らすことができるのかを考えることはとても重要だと思います。みんなでポイ捨てがない社会を作っていきましょう！



中俣 友子 なかまた ともこ

尚綱学院大学総合人間科学系教育部門 心理・教育学群

ポイ捨てされたごみは、雨風の影響を受け、川に流れ、やがて海へたどり着きます。ポイ捨ては、私たちの身近な環境だけでなく、ごみが運ばれていった先の地域社会、野生動物や自然の生態系にも深刻な影響を及ぼします。

今回の授業では、心理学の観点から、ポイ捨てをする人の心理やポイ捨てを減らす方法を考えましたが、他にもたくさんのアイデアがあるはずです。この授業をきっかけとして、地球に住む地域社会の一員として何ができるか考え、行動を起こすことで、持続可能な未来を築くことができます。皆さんの協力と取り組みが、美しい地球を築く第一歩となります。



鼠ヶ関バリアフリービーチ



海洋ごみの清掃活動



鮭の採捕、資源保全の体験事業



山形県の海は、庄内地方の遊佐町、酒田市、鶴岡市の三市町の海岸線から成り、鳥海山の伏流水や珊瑚群生地の北限である離島飛島など、豊かな魅力ある環境を作り出しています。また、北前船の寄港地として栄えたことから、本間家旧本邸などの歴史的建造物は山形県の文化の源としての役割も担ってきました。「海と日本プロジェクト in 山形」は、その活動を通じて、未来を担う子どもたちに海を守り慈しむ心を育む活動を展開していきます。

🔍 海と日本 山形 検索

yamagata.uminohi.jp



事業名 CHANGE FOR THE BLUE 山形県陸域部における散乱ごみのモニタリング体制の構築と削減対策の検討 事業
編集 特定非営利活動法人 パートナシップオフィス
発行 海と日本プロジェクト in YAMAGATA 山形県山形市白山 1-11-33 テレビユー山形 (TUY) 内
問合せ 023-624-8109 テレビユー山形 (TUY) 営業局事業部